



廿日市市宮島大江浦海岸 (上)、江田島市三高港周辺海岸 (下)

GSHIP会員向け清掃活動を実施 アクセス困難海岸の清掃に挑戦

GSHIP会員と一般公募で20人の参加者が集まり、一同は、片道

広島県が実施している海岸漂着物実態調査を参考に、海岸までのアクセスが難しく、ごみの量が多い海岸の清掃を企画しました。陸路が無く、カキの抑制棚や干潟が広がっており、動力船で近づくことも難しい海岸だったため、カヤックを使って清掃現場に行きました。

風で流されるのか、発泡スチロール屑やペ

GSHIP会員や江田島市公衆衛生推進協議会、一般公募など65人が参加し、約1時間の清掃で660kgのごみを集めることができました。

11月1日
廿日市市宮島
大江浦海岸



大江浦海岸では、カヤックを漕いで清掃会場に向かった

ました。

11月2日
江田島市
三高港周辺海岸

60分のツーリングを楽しみながら大江浦海岸に入り、海岸清掃を行いました。

ツトボトルなど軽いごみが海岸に堆積しており、参加者からは驚きの声が上がりました。

それぞれの清掃活動後に参加者へインタビューしたところ、「ごみの量に驚いた。1回では清掃しきれない」「ごみが発生しないような対策が重要」などの声がありました。

GSHIPが掲げる「2050年(令和32年)までに新たに瀬戸内海に流出するプラスチックごみの量をゼロにする」ことを目指して、これからも流出防止と清掃活動への協力をお願いします。

長年の取り組みにより、下水処理や工場排水の管理が進み、県内の海や河川はかつてよりも格段にきれいになりました。私たち環境分析の現場でも、お客様から分析のご依頼を受けた海や河川の有機物や栄養塩(窒素、リンなど)の濃度を測定し、「きれいな水」が増えている

環保協の
環境生活
センター

④7環境分析課

きれいすぎる海？

最適な海の栄養バランス



んだ方で、生きものにとつては栄養不足の状態となっています。環境保全とは、汚れを減らすことだけではなく、自然にとつて最適なバランスを保つこと

ともあります。私たちが携わっている環境分析は、数値の変化の中に、この最適なバランスを保つためのヒントがあります。また、分析の結果を正確に積

私たちは、きれいな海のその先にある、いのち豊かな海を未来へつないでいきたい」という思いを胸に、日々の分析業務に向かっています。

(環境分析課 吉野由香利)



み重ねていくことは、問題の早期発見や、適切な環境保全対策につながります。これらのことから、正確な分析結果をお客様に提供し続けることこそ、私たち分析者にできる価値ある社会貢献と考えています。

令和7年度保健所・市町水道担当者研究協議会

複合的な課題への対応力を 県内水道事業の健全な発展に寄与

当協会は11月27日、公衆衛生会館講堂において令和7年度保健所・市町水道担当者研究協議会を開催しました。本協議会は1988(昭和63)年の発足以来、新型コロナの影響による令和2・3年度の中止を除いて毎年実施しており、今年度で35回目を迎えました。当日は、広島県および県内各市町の関係者に多数ご参加いただき、会議は盛況のうちに閉会しました。

今年度は、来賓として広島県健康福祉局食品生活衛生課課長 東久保 靖様、広島県水道広域連合企業団技術部長 秋本隆彦様、広島市水道局 技術部設備担当部長 新見一郎様、福山市上下水道局施設部水質管理センター所長 黒川 学様をお迎えしました。

特別講演では、国土交通省 中国地方整備局河川部地域河川課水道係長 日村 健一様より「国土交通省における水道行政の動向等について」と題して、昨年度に水道行政が厚生労働省から国土交通省と環境省に移管されたことに伴い、国の役割、中国地方整備局の働き

について幅広くお話をいただきました。これに続き、広島県健康福祉局食品生活衛生課主任 川西祐子様より「最近の水道水質について」と題し、令和8年4月から基準項目となるPFOS、PFOAの水質検査頻度の考え方と県内の検出事例、クリプトスポリジウム(※)対策状況について講演いただきました。いずれの講演も参加者の関心が高く、講演後も活発な意見交換が行われました。

水道事業は、自然災害や施設老朽化、PFOS、PFOAをはじめとした化学物質対策など、複合的な課題への対応力が求められています。当協会も、安全で安心な水道供給の一端を担う水質検査機関として、関係機関との連携を一層深め、県内水道事業の健全な発展に寄与してまいります。

※クリプトスポリジウム：寄生性原虫。水道水や食品を介して人に感染し、水溶性の下痢や腹痛などの症状を引き起こすことがある。

(業務開発課 奥谷 健太)



講演を熱心に聞く参加者